

編集後記

本号の巻頭言は野上邦栄教授にお願いいたしました。

橋の技術継承に思うと題して、グローバルな視点から日本の技術者について、長大橋建設で培われた特殊技術の継承と新たな技術開発の必要性、海外市場での戦略的展開のため国内基準（英語版）の充実と海外基準への精通の必要性について貴重なご意見頂いております。また、技術開発を推進し世界をリードし100年後に技術者のみならず一般の人々からも尊敬される橋を作る努力すべきとの心に響くご指導を頂いております。先生にはご多忙のところ玉稿をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

この編集後記を執筆している頃は、学生さん達が卒業式や終業式を迎え、4月から始まる新生活にきっとワクワクしていると思います。

さて、平成27年のNHK大河ドラマの中で、ヒロインの兄である吉田松陰先生が門下生に対し「君の志とは」と尋ねるシーンがありましたが、「自分の志は何であろうか。」と考えさせられました。

みなさんの志は、何でしょうか。筆者は、社内で現場の安全・品質管理をサポートする立場にあり、当社の社員並びに協力会社の従業員の方々が、日々怪我する事無く、朝出勤する時と同じ姿で帰宅できる労働環境を作ることが、社員としての思いです。

筆者の主観ですが、大型プロジェクトでは労働災害や品質トラブルが少ないように感じます。大型プロジェクト工事では他の工事に比べ設備的な優位はありますが、地図や歴史に残る物を作る思い、良い物を長く残したい一人ひとりの思いが、結果的に事故を起こさない力となっているのではないかと思います。工事に関わる人々が、どんなに小さな工事に対しても、この「思い入れ」、「志」を如何に持つか、持続するかで、事故発生率が下がるように思えます。そこで、この宮地技報が良いものを作る為の参考になり、良い仕事をしたと思える切っ掛けとなればと筆者は望んでいます。

今回の技報に投稿した当社の社員の皆さん有難うございました。また、投稿を作成するに当たり、ご助言を頂いた各方面の皆様、誌面をお借りして御礼申し上げます。繰り返しですが、本技報が品質のみならず、安全にも貢献できるよう心から願っています。

宮地技報編集委員会

委員長	飯塚和通			
副委員長	河西龍彦	平島崇嗣		
委員	上原正	奥村恭司	工藤康良	
	小原久	佐藤充	瀬戸井裕	
	戸井口由和*	永谷秀樹*	西垣登	
	松本博樹	百瀬敏彦		

*印 事務局兼務

宮地技報 第28号

発行日 平成27年3月31日

発行所 宮地エンジニアリング株式会社

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町19番19号

TEL 03(3639)2111(代)

印刷所 望月印刷株式会社